

令和2年漁期するめいかTAC（漁獲可能量）の設定及び配分について（案）

令和2年1月
水産庁

1 TAC

57,000トン

設定の考え方（「3 令和元（2019）年度資源評価結果」も参照）

冬季発生系群は、これまでの管理方針を継続して実施していくこととし、従来の考え方に基づいた漁獲シナリオとする。また、秋季発生系群については、2019年の資源量推定値の不確実性は例年以上に高いため、予防的措置を講じることが望ましいとの研究機関からの助言も踏まえ、以下の考えに基づき算定された両系群のABCの合計値をTACとする。

（冬季発生系群）

「親魚量の増大」（Frec5yr）シナリオで算定されたABCのLimit（11,000トン）とする。

（秋季発生系群）

「親魚量の増大」（Frec）シナリオで算定されたABCのTarget（46,000トン）とする。

2 配分

「漁獲可能量（TAC）の配分シェアの見直しについて」（水産政策審議会第92回資源管理分科会資料4）に従い過去三か年（平成27年～平成29年）の漁獲実績等に基づき配分する。

3 令和元（2019）年度資源評価結果

系群	漁獲シナリオ（注2）	令和2年漁期 ABC (千トン)		参 考	
				親魚量	Blimit (親魚量)
冬季発生系群	親魚量の増大(B/Blimit×Fmed) (Frec)	Target	7	47千トン (2019年)	165千トン
		Limit	9		
	親魚量の増大(5年でBlimitへ回復) (Frec5yr)	Target	9		
		Limit	11		
秋季発生系群	親魚量の増大(5年でBlimitへ回復) (Frec5yr)	Target	42	297千トン (2019年)	365千トン
		Limit	52		
	親魚量の増大(B/Blimit×Fmed) (Frec)	Target	46		
		Limit	57		

注1：TACの基となったABCは黄色ハイライトで表示。

注2：中期的管理方針(下記)に合致するシナリオを記載。

【中期的管理方針（海洋生物資源の保存及び管理に関する基本計画から抜粋）】

本資源は減少傾向にあるが、これは海洋環境の変化に伴う再生産環境の悪化によると考えられ、短期的には減少傾向を緩和し、中期的には環境が改善された場合に資源を速やかに増大できるよう親魚量を確保することを基本方向とする。

ただし、本資源は、大韓民国等と我が国の水域にまたがって分布し、外国漁船によっても採捕が行われており我が国のみの管理では限界があることから、関係国との協調した管理に向けた取組が行えるよう努めつつ、管理を行うものとする。

参考：するめいかTACの推移（直近5漁期）

単位：千トン

R2年 (案)	H31年 (2019年)	H30年 (2018年)	H29年 (2017年)	H28年 (2016年)
57	67	97	136	256